







★神戸の粹をエッセンスに個性的なシルバーアクセサリー誕生

銀板一枚、銀線一本から丹念に叩いて伸ばし、バーを掛け、ペーパーで磨いて、一つ一つ思いを込めて創った作品の数々。彫金デザイナー木村早苗が生み出す世界は、湧き出るイメージを大切にした神戸らしい



あなただけのオリジナルデザインをぜひどうぞ

先月大阪で開催された個展でも大好評を博し高い評価を得た。手持ちの宝石を持ち込みば、その人に合ったオリジナルデザインを創つてもらうことも出来る。自宅をギャラリーにしているので、一度のぞかれてみてはいかが。

■連絡先

☎ 078・8557・6486

★春分の日 摩耶詣祭開催

摩耶山には、江戸時代から旧暦2月、初午の日に近郷在所の人々が馬を連れて天上寺に参拝し、銅馬の息災を祈願して「摩耶かんさし」と呼ばれる「花かんざし」を馬に飾り、土産に「摩耶昆布」を持って帰るという珍しい風習があり、この行事は明治の末頃まで盛んに行われ「摩耶詣」と言って多くの人々に親しまれてきた。こうした古事に

★六甲山牧場 第7回スプリングフェア開催

六甲山牧場では今年も楽しい企画が盛りだくさんのスプリングフェアを開催。牛の搾乳やバター作り、椎茸の駒打ち作業の体験など家族ぐるみで参加できる催しがメーンイベント!! みんなで春の陽射しを浴びに、六甲山牧場へGO!

<http://www.portnet.ne.jp/~rokkosan/>



仏母摩耶夫人尊

因み摩耶山天王寺では、春を呼ぶ伝統行事として3月

20日(土)春分の日に「摩耶詣祭」を開催する。午前10時から天王寺では菜の花御供、御馬詣など。

11時から

まやローブウェー「星の駅」前広場では、飾り馬のパレード、甘酒の振舞いなど楽し

いイベントが満載。春の季語にもなっている摩耶詣祭にせひどうぞ。

■摩耶山天王寺

☎ 078・861・2684

四百年不抜の森  
誕生日運動



作家の立松和平さんがお社のお寺の修理材を確保するため、植林「古事の森」を提唱しています。材質によって百から四百年も伐採しない。木は植えるだけでは材木にならない。不断の世話を要ります。

本運動へ十年・二十年と献金を続けられる方がすぐならずおられます。神戸で灯ったこの運動が、ここまで進められたのは、多くの賛同・支援者に支えられたからです。四百年見守らねば木はお寺の梁になりません。知力のハンディキャップ問題の啓発運動も人間の一生のスパンよりも長く掛かるのかもしれないのです。人間本質の問題だからなのか、関係者の力不足なのか? 自問し続けながらも、引き続き支援をお願いします。

百年の一睡をせり山椒魚(倉田俊三)  
誕生日ありがとうございます。  
TEL&FAX 078・31257  
60  
M

誕生日ありがとうございます。  
TEL&FAX 078・31257  
60  
M

★みんなの春を極彩色に染めて・神戸らん展2004

昨年13万人を超える来場

★笑顔の復興 港おどりだー  
祭りだ！ワッショイ

花時計



の日のために丹精込めて栽培された蘭の美を競う「コンテスト部門」や楽しんで参加できる「人気投票部門」、そしてバーゲンプライスで大人気の「ショッピングゾーン」と、蘭の魅力満載の5日間。花の波につつまれ、一足早い春を感じてみてはいかが。入場料1,600円

★みんなの春を極彩色に染めて：神戸らん展2004

A black and white photograph of a flowering plant, likely a species of orchid, showing several light-colored flowers with distinct markings and long, slender leaves.

香り高く美しい蘭に思わず引き込まれます

前壳 1300円

開催期間／3月3日(水)～  
4月4日(日)。10時～17時ま  
で。

■神戸国際展示場（ポート

■ アイラヘルツ

卷之三

絵画も、書も、写真も、生  
花も、ファッショニも、デザ

インも、立体的なレイアウトで見ると、のびやかで、アーチ

チストの熱気が胸に迫って来るのだ。こんなにも天井の高い玄いスペースで観る作品が

い匂いが、うで袖の作品など違うとは……。

やつていた前のプロデュース  
が、あれでよかっただのかと思  
い返す。こんなに地

い返されます。こんなに地元のアーチストたちの文化力が花開くさまを見て、再生して

よかつたとつくづく思う」  
ほんと、だれのための芸術

なのが。税金はこんな風に使うと意義がある。王子ギャラリーや竹中郡生誕百年記念

して、『詩人の館』に。

★のひのひとアートが生きる原田の森ギヤラリーへ

して、『詩人の館』に。

のれ、来年は知事も市長も、絵書きを！

•  
K)

# 重廣恒夫の 山歩き教室

## 関西学院大学ワンダー フォーゲル部の遭難に思う



備や食料が十分であったかどうか、下見の有無などが取りざたされますが、昨今増加している遭難事故を検証する限りモノ不足はほとんどありません。むしろモノをそろえることに一生懸命で、本来必要な体力や技術の養成、経験の積み重ねなどが疎かにされている現実があります。必要なのは「十分な装備」ではなく、「対応できる能力」です。最近の学生達の山行日

4年間で習得できる技術や経験は数は確実に少なくなっています。自然の力に比べれば微々たるものでの、経験の豊富な先輩や〇

B等の同行が難しい場合、SOSを発する前に頻繁な気象予報の取得や、困難な事態に直面した場合先輩に相談するなどの方法が通信機器の発達した昨今では取れるのではないか。今回若い彼らが遭難から学び取るのは多くあります、肝要なのはそれを人達が今後はどう生かすかです。

(しげひるつねお)  
1947年山形県鶴岡市生まれ。71年オニ  
ツカ（現・アシックス）に入社。73年エバレ  
スト・南西壁の世界最高点（当時）へ到達。  
77年日本人として初めて初登頂。80年、  
北壁からの新ルートでチヨモランマンに登頂。  
88年のチヨモランマンで交差競走にて、登攀隊長  
として、世界最高峰を舞台にした世界初の  
交差競走を成功に導く。また、世界未踏の  
最高峰を登頂する。96年、チヨモランマ  
ラウンドの初登頂を指揮。96年、日本百名山  
を123日で連続踏破した。

小原集落に下山する予定でした。4日までは順調に前進し予定地点より先に進んだ所でテントを張つたが、5日に状況は一変し、風雪が強まり、降りしきる雪によってテントが埋没し放棄をせざるを得なくなりました。その後雪洞にこもり6日、午後無線で救助要請が

した。今回のように周りの環境が大きく変化しているのに、自分達(リーダーの経験、メンバー全体の経験と力)の能力を超えた行動(当事者はなかなか判らない)を続行しようとしたことに問題がありました。遭難事故が発生すると装

## 裏六甲縦走



### 第6回六甲山トレッキングツアー（2／18）

2月18日(水)、六甲山トレッキングツアーも早いもので第6回となりました。前日まで雨もなく暖かく。その上風もない好天気に恵まれた一日でした。只私個人としては足を痛め、12月・1月を休んでしまい不安がいっぱいの参加でした。今回のコースは裏六甲の穴場・静かな縦走路とか…。登りはじめてしまふらく不安が的中、廻りの方にお手数をかけ申し訳ない気持ちでいっぱいでした。ありがとうございました。トレーニング不足を痛感！

「ストックは漕ぐものではありますん！」の声。心身ともに余裕がなく眺望のよいところもただひたすら歩き続けました。少し早い昼食時にいたいた「心のこもつた熱いスープ」の味は忘れないでしょう。思いもよらぬ急登・長い急な下り道等、私にとってタフなコースでしたが無事に下山できました。ツアーのお誘いを頂いた時は嬉しく、今は苦しみの連続、楽しみながら歩ける日は来るのです。その日の近いことに思いをめぐらせ次回も出かけたいものです。

栗原晶子

# 海

# 船

# 港

## 日本初寄港クリスタル・セレニティ乗船記① 文・上川庄二郎



■かみかわ しょうじろう  
1935年生まれ。神戸大学卒。  
神戸市に入り、空港対策室長、消防局長を経て定年退職。現在、関西学院大学、大阪産業大学非常勤講師。



一 プロローグ 浜松在住のYさんから、「上川さん、今年(2003年)7月に就航したクリスタル・セレニティをご存知ですよねえ。この船が今度日本に初めてくるんですよ。出来ましたらあなたと一緒したいと思いましてね。私も、こここのところ体調を崩しましてね、車椅子生活の身になっているんですよ。これが最後のクルーズと思いましてね」との手紙が届いた。Yさんは、元外航船の船長さんで、今はご夫妻で世界を舞台に船旅を愉しんでおられる御仁である。

クリスタル・セレニティは、日本郵船がアメリカに設立したクルーズ船会社であるクリスタル・クルーズ社が、姉妹船クリスタル・ハーモニー、クリスタル・シンフォニーに続く第三船として就航させた大型船で、今日本のクルーズ船とは比べようもない豪華客船だといえる。というのも、このクリスタル・クルーズ社が今日までラグジュアリーシップとして世界最高の評価を得てきたという実績があるからに他ならない。だが、この会社は日本の船会社ではないし、船もすべて外国船。

さて、乗ると決めるとなれば善は急げ!とばかり、みなと総局の幹部の皆さんに、「日本初寄港」しかも広島、神戸、名古屋、横浜、清水と日本の五つの港に寄港するこのクリスタル・セレニティに対して、神戸港はどんな歓迎ができるのか、どのようにしてホスピタリティをアピールするのか。この5港の中で、神戸港が一番だったと言つてもうるような歓迎行事ができるのか、せひととも頑張って欲しい」などなどと訴えて回った。

## 二 いざ、グアムへ

今回のクリスタル・セレニティの航海日程は、1月19日にロスアンゼルスを出航し、ハワイ、グアム、日本(広島、神戸、名古屋、横浜、清水)を経て、上海、香港、ベトナム、タイ、シンガポール、インド洋、アメリカの各地を寄港しながらケープタウンをぐるっと

回り、南米各地にも寄港して、5月5日にニューヨーク帰港、という108日間のワールド・クルーズ。私たちは、この間を区間クルーズでグアム・神戸間(2月5~12日)を乗船しようというものである。

2月4日、関西空港からグアムに飛んだ。着後、ホテルで一泊し、翌5日午後、アブラ港でのセキュリティのための厳しい出国検査をパスしようやくクリスタル・セレニティの人となつた。17時、船はアブラ港を後にサイパンに向けて出航。早速、Yと夫妻らとディナーをご一緒しながら歓談のひと時を過ごした。

一夜明けて、クリスター・セレニティは、サイパンのチャーリー・ドックに着岸。もう再び来ることもないだろうと、半日観光に出掛けた。バンザイクリフの断崖に立って、戦没者や島に移住して犠牲になられた人々の慰靈碑が立ち並ぶのを目の前にすると、思わず胸の押し詰まるのを覚えずにはおられなかった。ここサイパンは、太平洋戦争で南雲海軍中将の率いる日本軍玉碎の地。この後、日本軍は硫黄島、沖縄と敗退し、広島、長崎に原爆を投下されて敗戦を迎える。皮肉なことに、日本最初の寄港地がその広島とは…。サイパンから広島までは4泊5日いよいよ本格的なクルーズの始まりである。

### 三 クリスター・セレニティ

まずは、今回始めて乗船したクリスター・セレニティについて触れておかなくてはならない。

クリスター・セレニティは、姉妹船クリスター・ハモニー、クリスター・シンフォニーとは別タイプの名前である。辞書を引いてみると、Serenityとは晴朗、静穏、沈着といった意味である。この意味からすると、前二船の融合的な和のイメージと比べややドライべートな雰囲気を大切にする船をイメージしたのだろうか。このクリスター・セレニティは、2003年7月に地中海で初就航した新造船。総トン数6,887.0トン、全長250メートル、幅32・2メートル、喫水7・6メートル、航行速度22ノット(最高23ノット)。乗客定員は1,080人、乗組員は、ノルウェー人のキャプテン以下世界各国(40か国)出身で655名。もちろん日本人クルーも乗り組んでいる。デュブティ・キャブ

テン、機関長、一等航海士、アクティビティズ・ホス

テスの他すしバーの職人さんなどである。

今回のワールド・クルーズで日本に初寄港するのだが、姉妹船のクリスター・ハモニー(49400トン)に比べて約30%もスペースを増やしているのに比し、乗客定員は15%しか増やしていない。しかもキャビンはすべて海側で、そのうち85%がベランダ付、バスターは全室完備ということだから居住性に重点を置いていることが理解できる。もとよりパブリック・スペースも相当広くなっているはずである。邦船の飛鳥、ばしふいく・びーなす、にっぽん丸、ふじ丸などとは比べものにならない。その上、コンピューター・ルームもあり、メールやデジカメのプリントなどわけなくできる。私などは、暇を見てこの原稿を少しずつここに通つて書いた。こんなサービスは日本の客船では出られない。

この他、日本人に対するコミュニケーションが他の外国船と比べても格段によい。毎日配られる船内新聞やレストランのメニューは日本語版で提供され頭を悩ますことがない。その上、困ったときには、日本人女性のアクティビティズ・ホステスが乗船しているからまず不自由することはない。クルーの皆さんも片言ながら日本語で対応しようとしている。

日本のクルーズ人口が伸び悩んでいるといわれる中で、この船では皮肉なことにグアムからは日本人乗客が4分の1を占めるほどの人気なのである。こうしてみると、日本人のクルーズ人口もこれからもっと伸びゆくんじゃないか、「クルーズは、1400兆円の資産を持つ高齢者の消費だから、日本経済の需要喚起策や雇用対策になり得る」(竹健一)という、私もそのとおりだと思う。ただ、これが国内クルーズ船でなく外国クルーズ船に流れてしまうとすれば少々思惑外れではある。しかし、ここは逆手にとつてもっと外國船を誘致するようにしたらしい。そのため国内のクルーズ船社、エージェント各社、港湾管理者にはもつともと頑張つてもらいたいところ。もちろん、神戸市や商工会議所にもこれまで以上に努力し頑張つてもらわないといけないのは当然である。

# ナゾ多い私生活

## 中右瑛

北斎の私生活も、またナゾに包まれている。特に妻や子など家族関係者には不明な点が多い。

北斎は二度の結婚歴があり、男二人、女三人の合せて五人の子供がいたという。六人という説もある。

最初の結婚期や妻の名は不明だが、その妻との間に

は三人の子供が生まれたことは確かである。

長男は富之助。長女・お美与。次女お鉄。

しかし、幸福な家庭に突然不幸が襲った。最初の妻が寛政六年（一七九四）に死亡したのだ。三人の幼な児をかかえた北斎は途方にくれた。そんな苦境を救ってくれたのが後妻のことと女だった。後妻との間に

は二人の子をもうけた。

次男・多吉郎。三女・お栄。このお栄が北斎ミステリーに深く係ることとなる。

そのことは後で述べるとし

よう。

後妻のこと女は前妻の子を加えて、五人の子の面倒



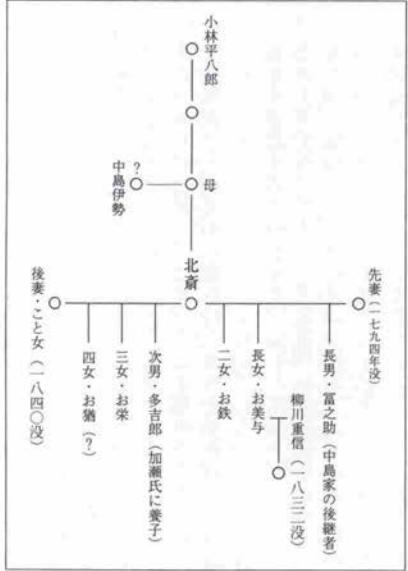
を見たことになる。

中島家の後継者となつた長男・富之助については早世したと伝わるが、何歳だったかは不明だ。

長女・お美与は成人して北斎の弟子・柳川重信と、文化十年（一八一三）ごろに結婚し、男子を生むが、夫婦仲が悪く、文政五年（一八二二）ごろに離婚する。お美与はまだ年少のわが子を連れて実家に戻る。後妻こと女は、病氣がちのなきぬ仲のお美与とその子の面倒をなぐれとなく看るのだった。お美与はまもなく死亡した。

北斎は初孫に当たるお美与の子をいじらしく、憐に思ひ可愛がった。しかし、その子は実は大の問題児であった。少年期からぐれて人様に迷惑をかけ、北斎もこの子には手を焼いたという。この子を、別れた婿の重信に引き取つてもらつたが、重信は天保三年（一八三二）に死亡。享年四十六歳。問題児はまたまた北斎の許へと戻ってきた。問題児は成人し、バクチ、借金など放蕩の限りをつくす。

北斎七十五歳のとき、突如、三浦半島に隠居したのも、実はこの孫のせいである。孫がバクチ等で借金を抱え、保護者である北斎が裁判沙汰となり負けて、江



戸追放となつたからだ。詳しく述べる。

この問題児の孫との係わりは、北斎晩年までつづく。

次女・お鉄は画才あり、絵を描いていたというが、結婚後、死亡したと伝わる。詳しく述べる。

後妻・こと女の子、次男・多吉郎は御家人・加瀬氏

の養子となり、崎十郎と改名した。その後の記録はない。

寛政十二年ごろに出生した三女・お栄については、

明治の研究家・飯島虚心著『葛飾北斎傳』にも詳しく述べる。北斎の重要なカギを握る娘である。

このお栄は天才的な画才あり。画名を応為といふ。

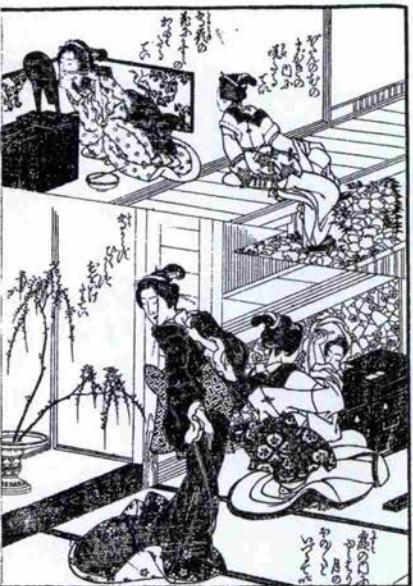
絵師・提等琳の弟子・南沢等明に嫁ぐが、等明は余りばとしない絵描きであった。そんな夫に嫌気をさし、未練なく離婚。実家に戻る。母のこと女が文政十一年(一八四〇)六月五日に死んで、淋しい北斎と、問題児の甥の世話を焼くこととなる。

画号を「応為」というのも、北斎がお栄さんることを「オーエイ」「オーエイ」と呼んでいたのを、いつの間にやらベンネームにしてしまった。お栄さんもなかなかシャレ人である。

しかし、「オーエイ」と呼んだのは、お栄さんの方で、お栄さんが父親北斎に「オーエイ親父どもの」「オーエイ親父ど」と呼んだ:という説もある。

このお栄さんは、天才絵師の異名をとっていたにもかかわらず。「応為」署名の作品は殊の外少ない。このことも不思議で、おそらく、お栄さんは北斎の代筆ばかりしていた証拠であろう。そこで影武者説が浮上しているのである。

お栄さんと北斎、そして孫との三人の生活は、実は人間臭く、また奇々怪々、ドラマチックで面白い。北斎の晩年の人生に大きな影とミステリーの影を落としているのである。



お栄のさし絵本『女重本記』(1847) 高井蘭山著

## 編 輯 畫 圖 高井蘭山著 應為榮女筆

弘化四年丁未初春

大坂尼森橋通久太郎町  
木ノ口本橋通一丁目

淺草寺町二丁目

日本橋二丁目

同

河内屋喜兵衛

横山町三丁目

同

賀原屋茂兵衛

本石町十軒居

同

岡田屋嘉

七助

同

山城屋佐兵

七助

同

小林屋新兵衛

門

和泉屋金右衛門

■ 中右 横 (なかう・えい)  
抽象画家。浮世絵・夢ニエッセイスト。一九三四年生まれ、神戸市在住。行動美術展において奨励賞、新人賞、会友賞、行動美術賞受賞。浮世絵内山賞受賞。半どん現代美術賞、兵庫県文化賞、神戸市文化賞など受賞。現在、行動美術協会会員、国際浮世絵学会常任理事。著書多数

# かしく祭り

浅黄

あさき

まだら

斑

いんどう

とおる

△作家▽

絵・犬童徹

さてさつそくながら、例の手まり歌の三月分を  
ご披露しよう。

ああ好いや好いと、指で悪じやれ、憎とふつ  
り桃の節句は、潮干というて、痴話のこたつに、  
足で貝踏む、衆道好きこそ高野御影供や――

好いや好い、のなかに、しっかり「弥生」とい  
うことばがひそんでいるのを、まずはお見逃しな  
きように、と喚起して、それにしてもまあ、これ  
は、むずかしそうななかにも、ずいぶんと、みだ  
らな連想を呼び起こす歌詞ではありませんか。

桃の節句は三月三日。この女の節句に桃花を飾  
り、白石、菱餅、炒り豆、蛤を供えるのはなぜか。  
みだら流に解き明かさずとも、すべて学術的な定  
説があります、と、大上段に振りかざすこともありますまい。都々逸の文句に「桃もいやなら桜も  
いやよ。ももとももの間あがよい」てのがあります  
いやよ。ももとももの間あがよい」てのがあり



ますが、つまりは桃は、女性自身の象徴であります。小生思うに、今は死語とも化した「桃色遊戯」なる懷かしきことばにも、この概念が入っていたのではないかでしょうか。

三月とはいえ、まだ肌寒くて、男女差し向かいにコタツに入るんですね。で、痴話――エッチな話をしながら、男が足を伸ばして、女性の両腿をこじ開ける。足の指がけしからぬ悪じやれをはじめると、女性のほうも「好いや好い」となって「まあ、憎い」となるんですね。憎と肉の掛詞もお忘れなく。桃の節句に炒り豆と蛤を供える、と書いたのを思い出してください。いずれも女性の象徴ですよね。「足で貝踏む」まさにコタツの中の状況をいっております。

でもそれだけじゃありません。旧暦三月の初めごろには潮の引き差しの激しい大潮がきて、三月は潮干狩りの季節でもあるのです。住吉社では潮干祭りなんてのがありました。江戸前期の仮名草

紙である「浮世物語」に、「何より面白きは三月三日の潮干の遊也」と記されております。

三月二十一日は、弘法大師が高野山の奥の院で入定した日で、この日を中心とした一週間、全国各地の大師関係寺院で弘法大師の徳を追慕した祭りが開かれます。これが御影供であります。

ええと、衆道というのをご存じでありますか。これを語りはじめると、一冊の本になってしまいますので、多くは語りません。一口にホモとかゲイとか呼ぶには惜しい我が日本国的精神史があります。数年前、小生は「ちよんがれ西鶴」という長編時代小説のなかで、史実でもある「衆道の殺人」というのを扱いましたが、興味ある方は読んで見てください。

それはともかく「衆道は弘法に始まる」といわれます。元々は日本になかったこの文化を、留学先の唐から持ち帰ったのが空海、すなわち弘法大師だったというものです。つまりは、そういう含みがあるんですね。

この手まり歌には出てきませんが、三月十八日は、大阪・曾根崎の法清寺というところで「かしく祭り」というのがおこなわれます。ご存じの方は、よほど文楽に造詣が深い。

かしく、というのは、曾根崎新地の遊女の名で、酒乱の果てに殺人を犯し、千日前の刑場で露と消えました。その命日が祭りの日となっています。「曾根崎心中」のお初、徳兵衛が淨瑠璃芝居になって大ヒットしたように、昔の文楽は、まさに現代

のワイドショーです。遊女かしく殺人事件も「八重霞浪花浜萩」となって大ヒット、こうしてかかるの墓がある法清寺は、かしく寺とも呼ばれて、

その墓石を削って飲めば、酒乱に靈験あると伝えられるにいたしました。今も酒に悩む多くの参拝客があるんだとか。

今はワイドショーですが、昔風にいいあらわせば、こういった事件ものを扱った記事を「三面記事」といいます。で、この三面記事の発明者ははどういうと、「巖窟王」とか「ああ無情」などを翻訳して日本に紹介した作家でもあり、我が国で最初に探偵小説を書いた人でもある黒岩涙香という人物。この人がつくった「万朝報」という新聞の三面に、ゴシップ記事を満載したことが始まりなのです。

あ、なんだか脱線中ですね。実はこの黒岩涙香が十七歳のころ、大阪英語学校の学生だった。明治十二年のころです。この黒岩少年が探偵役となって「かしくのかじか」事件をはじめとする浪花のノンノベルとして現在発売中。タイトルも「かしくのかじか」であります、と宣伝もして、まことにお粗末さまでございました。

■ 浅黄斑（あさぎ） まだら 推理作家。市生まれ。西神ニュー・タウンに在住。一九四六年神戸市立新人賞。一九五五年日本文芸家クラブ大賞を受賞。日本文芸家協会、日本推理作家協会などに所属。日本文芸家クラブ関西支部長。「きょうも風さえ吹きすぎる」「ちよんがれ西鶴」「走る死体」「神戸・真夏の雪祭り殺人事件」など著書多数。

# やんちや

出石 アカル  
絵・菅 原 洸 人



「いつもきれいな花がありますね」と飾られた花を見て言って下さる人もあるが、うちの店の男性客は無精な人が多く、花にはほとんど興味を示さない。そして彼もその一人。

「サクラ、チューリップ、アサガオ、ヒマワリ、それからコスモスぐらいかな」

原義弘さん、51歳。彼が分かる花の名前すべてである。

この原さん、子どものころからケンカ大好きのやんちゃ坊主。うちの店には、ケンカの強い人が

ホント多いが、彼も行く先々の学校で番長を張つて来たという。ロック歌手の宇崎竜童に似ているが（そんなエエもんか？という声あり）、体格は立派、本気になった時の眼光も鋭く、真に男っぽくて、花を愛でるなどということは日頃ますない。それが今では、ある食品会社の営業部長さんである。

そう言えば彼には、前にも一度この欄に登場してもらったことがあった。自分の奥さんを久しく述べに知人に合わせ、奥さんが帰った後で、うちの

嫁はん年いったやろと言い、そんなことないと否定する知人に、無理やり同意させておいて、家に帰って、あいつがお前のこと老けたなあ、てゆうてたぞ、と言った人である。とにかく型やぶりな人なのだ。

その原さんが眞面目に心配している話。

「マンションの下で、毎晩夜中までうるさいんや。暴走族のたまり場になっとんねん。その夜も五、六人が来て騒ぎよった。寝られへんからアッタマ来てもて。そやけど俺も昔ほどの元気はもう無いし、一人で行くんはちょっと恐いから、息子の部屋ノックしたら、俺の気持ちを読み取りよって、「お父さん行くか」ゆうて、あつという間に喜んで先に飛び出して行きよった。あいつも頭來とったんやろ。息子が『コラッお前らっ!』ゆうて叫んだ途端に、中の一人が『ヤバイッ』ゆうて、クモの子散らすように逃げて行きよった。息子の顔見て脅えよった。そいつら息子のこと知つとったんや。それから姿見せんようになって、近所の人には礼言われたがな。そやけど俺、心配やねん。息子、俺と同じ性格じとるんや。俺の若い時そっくりやねん。ほんま俺、心配やねん」

その息子さんに、長く付き合っている彼女がいて、彼は一度会ってほしいと言っていたのだが、忙しいとか何とか理由をつけてまだ会ったことがなかつたのだという。だけど今度こそと言わされて、日曜日に会うことになったのだ。それが選りにも選つて、パチンコ屋に呼び付けたと。やがては息子の結婚相手になるであろう娘さんと、初め

て会う場所にパチンコ屋を指定するとはあきれた話である。しかも彼女と息子さんが指定のパチンコ屋に行つた時、彼は一人で二階の事務所に抗議に行つていたのだという。朝から打つていて負け続け、

「日曜日は出さんのか? それやつたら日曜日しか来れん客はどないするんや。ええ加減にせえよ」と、彼によれば紳士的に話し合つていたという。さらに彼のやんちゃ話。

「俺、営業しとるやろ。昼間はお客様さん相手にしゃべることばかりやがな。そやから家に帰つた時ぐらい静かにしときたいんや。ところがや、疲れ果てて帰つとるのに、うちの嫁はん、うるさいんや。俺が帰るん待つとて、近所のことやら、親戚のことやら、しまいにテレビで見た話まで、次から次に、なんぼでも話しよるんや。ほんで昨夜や。いつもやつたら辛抱して聞いたるんやけど、度そばにおつた猫のトラに『おいお前、ちょっと相手になつたれ』ゆうて、嫁はんの方へボーンと放つたつたんや。そしたらトラ、思いつきり嫌な顔しよつた。『なんで俺があんたの代わりに相手せなあかんねん』ゆう目えで俺の顔ジローッと見よるんや」

いすし・あかる 43年兵庫県生まれ。「風媒花」「火曜日」(同人)、兵庫県現代詩協会会員。詩集「コーヒーカップの耳」(編集工房ノア刊)にて、2002年度第31回ブルーメール賞文学部門受賞。

■新連載小説／③

# 銭の中のサムライ

中野 順哉

絵・題字  
平田 郁



「実は何も決めていないのです」

休六は紳士に打ち明けた。自分がどこの生まれで、どのようにして育ち、そして父に突然出て行くと言わされたこと、なぜ今船に乗って神戸に行こうとしているのかということ、その全てを休六は紳士に話した。

紳士は時折「ふむ」とか「ほう」といった簡単な相づちをうつてはいたものの、一通り休六の話が済むまで腰を折ることなく、黙つて聞いていた。「つまり、僕は父の期待を裏切っているのです。

こうして神戸に向かっていること自体が裏切りなのです。『いえ、最初からそんなふうには思つていなかつたのですが、何だかあなたの話を聞いているうちに、僕がいかに弱虫でどうしようもない卑怯者に見えてきて…』

紳士は煙草の煙をふかすと、ふうっと一息間をおいて「で、私にそういった話をしてくれたといふわけだね」と言った。休六の話を聞いているうちに、紳士も随分うち解けた口調になつてゐるようだった。休六は静かに頷くと申し訳なさそうに頭をかいた。紳士はそんな休六の仕草をさも楽しそうに見つめると、煙草を海面に投げ捨てた。

「いや、君はちつとも卑怯なんかじゃない。むしろ：勇敢と言つた方が良いよう思うがね」

「勇敢ですか？」

「ああ、勇敢だ。例えどのような結果であれ、そやつて何事も真摯にとらえようとする姿勢を日本語で勇敢というのではないのかな。君は答えるのではない自分をごまかそうとして船に乗つたと言つたが：船に乗つてもスクラップブックを見つ

めている君の姿勢は、少なくとも私には美しく見えた。君は川内の士族の家に生まれたそうだが：やはり薩摩隼人だ。一本気なところが実に侍だ」

「しかし：父はその侍だと、薩摩隼人だと何かを捨てて國を出ると言いました。でもあなたは僕が薩摩隼人だと言つて喜んでくださる。そして肝心の僕は何をすべきか決めかねている」

「君は歐米に行きたいと思ったことはあるかい。

一度でも行けば今悩んでいることなどすっかり吹っ飛んでしまうよ」

「そんなにすごい所ですか？」

「すごいなんてものではない。確かにここ数年で日本は歐米に追いついたかのよう見える。戦争にも勝ち続け、世界の五大国の中間入りも果たした。しかしそれは形骸に過ぎない。格好ばかり整えて、中身はからっぽだよ。歐米に行けばその中の本質を見る事が出来る。おとぎ話ではないが、『自分の本当の姿』を魔法の鏡に映して見る…といったところだろうか」紳士はまた一本煙草に火をつけて続けた。

「まるでアジアの一国であることを放棄したかのように、日本は歐米化することにやっさになつてゐる。そのくせ連中の文化の本質を知ろうとはしない。連中が何を模索し、何を体験し、そして何を結論としたのか：いずれこの国は踊らされるだろう。だんだん思考の規模が萎縮して、誰も国家のことなど考えようとしなくなる。いや、下手をすると自分が日本人であることも意識しなくなるのではないか。それを忘れる、一国の経済の話と一家の家計の話を混同し、自分たちの暮ら

しが良くならないのは政治が悪いからとか、税金が高いからなどと責任を転嫁し始める。あるいは手塩にかけて育てた子供を兵隊に取られるのは嫌だなどと言い、動物としての捷自身も忘れてしまふ。そうなればこの国は滅びるに違いない」「しかしあなたはさつき、文化を根底からくつがえさなければいけない。大場氏のような人物の努力こそが、これから日本を変えてゆくのだと信じていると言っていたではないですか」

休六は紳士の顔を食い入るように見つめた。紳士は相変わらず煙草を吹かしながら、海に向こうをほんやり眺め、力強く答えた。

「そうだとも。その通りだよ。欧米の歴史は君も学んだだろう。そしてかの国々には多くの戦いがあり、発明があり、そして文化があったことも知っているはずだ。デモクラシーという今はやよりも、彼らの中から生まれた。彼らは常に何が人々を絶対的な幸せへと導くのかを考えてきたのだよ。そして真剣に崇高な思想が、この世の中を変えてゆくと信じたのさ。ところが現実はそうではなかつた。現実はね：いかなる思想も、文化も、結局は経済という強力な「力」にはかなわなかったのだよ。彼らの本質：それは失望だ。連中にしてみれば、日本のようにあとから何も犠牲をはらうことなく付いてきた極東の小国など、苛立たしい存在にしか見えないだろう。少なくとも心から歓迎してくれるはずはない。戦勝国だ、五大国だ：冗談ではない。踊らされているのだよ。よほど心してからねば、この国は腐敗するだろう。

ただし：この列強たちの仕掛けた勝負にたつたそこは文化的な埠頭だ。あ、そうだ。もし私の話で

一つだけ勝利できる可能性があるようだ。それが今君の指摘したことさ。彼らの文化を今までだけ多くこの国に吸収させる。しかもできるだけ忠実にね。そうしてじっくり時間をかけて熟成されるのだ。それまでは他のアジアの国から何を言われようと知らぬ顔をしておくことだ。一〇〇年もすればあらゆる欧米の文化が国産でまかなえられる歌舞伎なんて想像できるかい。そこがねらい目だ。その時になつて地球という大きな天秤で我が国と欧米を秤にかけたとしよう。どちらの国に、唯一無二の文化が多くあるだろうか、どちらの国により強力な存在意義があるだろうか…そうなつて初めて欧米は我々の存在を認めるだろう。本当の意味でね。この遠大な将来の夢を実現させるもの。それが日本唯一の精神性：つまり自己犠牲の美意識さ。いわゆる「武士道」だ。眞実を見る鏡に自分を照らしたとき、そこに侍が立つてゐるかどうか：君は今そのことを考へてゐるんだよ。四六時中ね。実に勇敢じゃないか

紳士は煙草をまた海に捨て、休六の両肩をほんと叩いた。休六は何かを言おうとしたが、言葉になりそうになかった。

「さあ、そろそろ神戸だ。がんばりたまえ。機会があればまた会うこともあるかもしれません。その時にはまたじっくり話を聞かせてくれたまえ。神戸に着いたらまず、外国人居留地に行くべきだ。特にオリエンタルホテルに行つてみるのが良い。あ

理髪に興味を持つてしまつたというなら、そこ理髪店に行ってみると良い。紹谷という人がやっている。

といつてもそんな時代おくれの洋服を着た東洋人が突然やって来ても中へ入れてくれそうもないな：紹介状を送っておこう。理髪店にしろ、レストランにしろ、ホテルでは日常とはまた違つた世界を目にすることになるだろうから」

港に着くと小さなトランクをひょいと右肩に担いで休六は小走りに桟橋を渡つた。そして脇目もふらずに「外国人居留地」へと向かつていった。

「それにもすごい人に会つたものだ。何だかあの人の話を聞いていると、お尻に火がつきそうだな。すっかり聞き入つてしまつて、名前を聞くのを忘れてしまつた。コンタニ…とか言つてたな。紹介状を書くつて：でも僕だって名前を言つてないぞ。どうやつて紹介状なんか書くんだろう」と歩



きながら休六はひとりごちた。お互いに自己紹介もしそびれた紳士との出会い。不安も多かったが、休六の歩く早さは一向にゆるむことはなかった。その歩みはまるで誰かと約束をしているかのように、使命感に燃え、そしてどこか軽やかだった。

一五分ほど歩いた頃、休六は「目的地」に到着し

た。  
「これが…神戸か…」  
休六はごくりと唾を飲み込んだ。

\* \* \*

神戸：現代でもこの街にあこがれる者は少なくない。明治維新以降、もっとも大きな変化を遂げ



た街の一つであり、またごく最近まで当時のおもかげを残していた街もある。ここに居留地を設けるように初代英國公使オールcockが指示したのは文久元年のことであつたが、尊王攘夷運動など幕末の不穏な空気の中、実際「兵庫津」が開港するのは横浜開港の一〇年後、慶応三年のことであつた。そして居留地は日本人と外国人の紛争を避けるため、当時の兵庫市街から三、四キロメートル離れた砂浜と畑の「神戸村」がその造成に割り当てられることになった。「神戸」の歴史はここに始まる：まさに砂の上に突如「近代都市」が現れたようなものだった。

神戸に居留地が出来たのは慶応四年。定められた範囲は、東は旧生田川、西は鯉川筋、北は旧西国街道、南は海岸線という約五〇メートル四方の狭い地域であった。慶応四年の後、明治二年、三年、六年の競売で一二六区画は完売し、数年後には全容が整つた。

この居留地には特殊な自治組織が形成された。街の運営や行政は各国領事、兵庫県知事、登録外国人で構成される「居留地会議」が担当し、道路、下水、街灯などを独自に整備し、その管理までも行っていた。財源は借地権の競売から得られた収入と、毎年徴収する地租。また居留地会議は警察をも独自に組織した。この優秀な自治組織のもと、神戸外国人居留地は「東洋における居留地としてもっともよく設計された美しい街」だと評価されるにいたつたのである。

突如現れた「近代都市」の勢いはその後日本の食・スポーツ・文化のあらゆる方面に影響を与え、



■ 中野頼哉（なかのじゅんや）

一九七〇年生まれ。関西学院大学文学部フランクス文学科卒業。日本テレマン協会代表代行。上方講談の作家でもあり、すでに二十を超える作品が上演されている。

多くの「日本発祥」を生み出していった。例えば慶応年間に横浜の商館が購入し世界中の舌を魅了した「神戸ビーフ」や、明治四年に登場した日本の初の牛肉専門店。コーヒー豆の卸輸入。シーム商会の「ラムネ」。一升瓶入りの清酒。国産のソース。菓子の名匠ゴンチャロフのウイスキー・ボンボン。映画。ゴルフ場。日本初のジャズバンド「井田一郎とラッフィング・スター」。国産の蒸気機関車や電気機関車、そして日本初の寝台列車。「土足のまま入れる」デパートなど。こういったものが全て現代人にとっては日常的なものとなっている。「現代」を築く上で、この都市が担つた役割の大きさを思い知らされる。

「東洋」の居留地は明治三二年、日本政府に返還された。同時に多くの日本人がこの「聖域」に入り、大正から昭和初期にかけてここはビジネスの中心地として生まれ変わったのであった。

今、休六は壯麗な洋館の前に立っていた。それは明治四〇年にドイツ人建築家ゲオルク・デ・ランゲが設計した「オリエンタルホテル」だった。まさに「居留地文化」の心臓部に彼は立つていたのである。大正一二年。有馬休六、一七歳の春のことであった。



骆驼に乗る楽人  
(三彩 唐時代)



「アダンの木」

★長安 陶俑の精華  
●汗血馬と美女の系譜をたずねて♪  
ミホ・ミュージアムでは、春季特別展「長安 陶俑の精華」を開催する。この招待チケットをペア5組にプレゼント。

今回の展示では、長安周辺から出土した漢から明にいたる歴代王朝の人物俑や動物俑に、所蔵品をあわせて132点で構成されており、中でも唐時代の俑は選りすぐりの名品ぞろいで、古代中国の人があこがれた西方の汗血馬や、美女たちの変遷が辿れる。

ロードのロマンを探しに出で  
陽春の琵琶湖へ、シルク『田中一村展』開催  
奄美群島日本復帰50周年を記念し、奄美を描き続けた孤高の画家「田中一村」の全貌と魅力に迫り奄美時代の代表作をはじめ、初公開作品を含めた約130点を展覧し、画業60余年のすべてを紹介する展覧会が開

### ★奄美を描いた画家

#### 『田中一村展』開催

奄美群島日本復帰50周年

■ミホ・ミュージアム／滋賀県甲賀郡信楽町桃谷30  
0748-82-3411  
<http://mihoj.jp>

## プレゼントメイト



### ■プレゼントメイトへのご応募は…

ハガキ・FAXに、希望する  
プレゼント名・郵便番号・住所・氏名・年齢・職業・電話番号・今月号の感想を明記の上、下記宛先にお送り下さい。

なお、商品の発送をもって発表にかえさせていただきます。

応募宛先〒650-0001 神戸市中央区下山手通2-13-3建創ビル401(有)月刊神戸っ子プレゼント係

TEL. 078-331-2246

FAX. 078-331-2795

の販売を開始した。  
つけてもきれいな立体構

造で、口紅がつかず、当  
ガーゼも不要なため、いつ  
でも清潔。お出かけにも気  
軽に使用でき、呼吸も会話  
も楽に行える。この花粉マ  
スクを10名にプレゼント。

今年はクリーンメイトで花  
粉をシャットアウト! (メー  
カー希望小売価格800円)

★お肌のトラブルで困つ  
いませんか?

Wクリーンメイト花粉マスク  
を購入して、またまたや  
って来た花粉のシーズン。  
株重松製作所では、防毒・防じんマスク  
専門メーカーのノウハウを  
生かし、高性能「NEWク  
リーンメイト花粉マスク」

オーガニックハーブ、植物  
オイルのみを原料に10  
0%天然手作りの石けんが、  
バーモント州の田舎町より  
日本に上陸。32日間かけて  
熟成させ、肌にやさしく、  
心にやさしく、地球にやさ  
しく出来上ったこの「バー  
モンツソープ」を5名にブ  
レゼント。世界で一番マイ  
ルドな石けんをぜひお試し  
下さい。



高品質の花粉マスクNEWクリーンメイト